

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

9番、井上三史議員、どうぞ。

○9番（井上三史）

皆さん、こんにちは。先に提出した通告に従って、一つ目の項目、開成町の教育政策について、お伺いいたします。最近の天気予報では、猛暑、酷暑に続いて危険な暑さという言葉までが使われるほど、この夏の暑さは異常であった。この暑さは学校教育現場に影響はないのだろうかかと心配になる。開成町立文命中学校には中学校においてエアコンの空調設備はパソコン教室などの特別教室には設置されているものの、ホームルーム教室をはじめ普通教室にはまだ設置されていないと聞く。教室にエアコンを設置し、勉学するにふさわしい教室環境を整えるべきであると考えます。

一方、18歳を迎える若者を取り巻く環境も大きく変わろうとしている。2017年6月からは、公職選挙法が改正され、選挙権年齢が18歳以上からになった。これにあわせるかのように、今年の通常国会においてこの7月に改正民法が可決通過し、2022年4月から成人年齢が満20歳から満18歳に引き下げられることになる。

二つの例を挙げましたが、地球規模での気象変動や急速に広がる国際化に備え、未来を託す子どもに生きる力をつける教育政策を講じるために、今回は次の質問をいたします。

①開成町立文命中学校にエアコン設置の考えは。

②成人年齢が18歳になった初年度の成人式の構想は。

③開成町立小中学校へのタブレット導入の考えは。

以上、登壇での質問といたします。よろしくお願ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、井上議員の御質問にお答えいたします。昨日の石田議員への答弁と繰り返しになってしまう部分もありますけれども、一つ目の開成町立文命中学校にエアコン設置の考えについて、まず、お答えをいたします。

町の幼稚園、学校の中で、唯一普通教室に空調が整っていない、文命中学校への対応、第五次開成町総合計画後期基本計画期間中に大規模改修事業の一環として実施をすることを予定をしておりましたが、今年の夏の猛暑より、愛知県では、熱中症により、学校教育活動の中で、小学生が死亡する痛ましい事故が発生しました。私としましては、本町の学校で、同じような事故を起こしてはならないと決意をし、子どもたちの健康面を最優先に考え、快適に学ぶ環境を早期に整備する必要があると判断をし、来年度中に文命中学校に空調設備を設置する準備を直ちに進めるよう、教育長に伝え、この9月会議で、後ほど御審議をいただきますけれども、一般会計

補正予算に設計業務委託料を計上をいたしました。

引き続き、開成町の子どもたちにとっての良好な教育環境の整備には、教育委員会と連携しながら、重要課題として取り組んでいきたいと考えております。

次に、2点目の成人年齢が18歳になった初年度の成人式の構想について、お答えをいたします。

2022年度の成人式については、成人年齢が満18歳に引き下げ引き上げられる初年度の成人式となります。成人の実施については法律による規定はなく、各市町村が主体となり「成人の日」の行事であるという趣旨を踏まえ、成人となったことを祝い励ます行事として、地域の実情に応じて企画・実施しているものであります。

本町の成人式については、現在福祉会館で開催をしており、新成人対象者の約8割130人～150人前後が毎年成人式に出席をしております。

2022年度の新成人対象者は現在の中学2年生から高校1年生の3学年が対象になりますが、3学年合同成人式の開催は会場面での確保等、現実的には困難が予想されます。また、時間短縮すれば学年別に三部制で開催することは可能ではありますが、出席者の意向も考慮しなければなりません。

なお、根本的に18歳として迎える1月は、大勢の方が大学受験シーズンでもあり、実施時期を含めた検討も必要ではないかと考えられます。神奈川県内では逗子市が2022年度以降もこれまでどおり、20歳のみを対象に成人式として「20歳を祝う成人の集い」を開催すると、既に方針を決定しておりますが、開成町においては、まずは近隣市町をはじめ、県内市町村の情報収集を行っていききたいと考えております。

一方、国においても、「成人年齢引き下げを見せた環境整備に関する関係府省庁連絡会議」の中で、「成人式のあり方等」についても検討事項項目の一つになっており、2019年度末には意見を取りまとめる予定となっております。この意見の取りまとめ結果を受け次第、なるべく早い段階で実施内容等を決定していききたいと考えております。

3項目めは、教育長にお答えをお願いします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

三つ目の開成町立小中学校へのタブレット導入の考えはについて、私からお答えさせていただきます。

現在の小中学校におけるICT教育環境としては、子どもたちが利用する教務用として、各学校のパソコン教室を中心に、開成小学校に45台、開成南小学校に44台、文命中学校に42台のパソコンのほか、プリンターなどの周辺機器を整備して活用しています。

ICT教育の一環として各学校実施される新小学校学習指導要領において、児童

がプログラム教育を体験しながらコンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習活動計画的に実施することをされました。このようなプログラミング教育など、小中学校のパソコン操作を主の目的とした学習は、各学校のパソコン教室の環境を使っていくことと想定しています。

一方で持ち運びが容易なタブレット端末については、既に施設内の無線LAN環境の整備とあわせながら、平成27年度に開成南小学校に8台、平成29年度に開成小学校に8台、今年の8月に文命中学校16台を導入しました。

タブレット端末を活用する授業を実施する際は、概ね、小学校では児童四、五人で1台、中学校では二、三人に1台の割合となります。

これまでにタブレット端末を整備した学校では、校内の普通教室で使える利点を生かし、カメラ機能を使って、理科、体育、図工の授業などで教材や子どものノートなどを撮影し、画像を画面に映し出すことで、教材の理解を深めることや、児童の発表などの場面で授業に活用しています。

また、インターネット接続できることから、教材をダウンロードして視聴することがでも行っています。

このようにタブレット端末については、グループ学習活動を中心に利用しており、情報を共有しながら進めていく教育活動に効果を上げていると考えています。

学校におけるICT教育の重要性は、今後ますます高まってくると考えられます。そのため教育現場の声を聞きながら、ICT教育を進める上での手段や学習内容の理解を助ける一つの方法として、今後のタブレット端末を活用した授業の進め方の研修などを持ちながら進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

それでは一つ目の開成町立文命中学校にエアコン設置に関する再質問をさせていただきます。

まず第五次開成町総合計画後期基本計画に盛り込まれる予定の文命中学校の大規模改修事業とは、普通教室に空調設備を整える計画以外にどんな改修事業が盛り込まれているのか、予定なのかを先に伺いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えいたします。まず、第五次開成町総合計画の後期基本計画につきましては、まだ内容が固まっていないという状況でありますので、あくまでも現段階では、文命中学校から昨年度まで打ち合わせをした中で、こういうところを直してほしいといった要望を、教育委員会で受けた内容になります。今後、それを吟味しながら、計画への位置付けを考えていくという状況でございます。

内容といたしましては、やはり1点目として、一番大きな問題が、エアコンの問題が一番大きな問題でございました。これについては、町長答弁にあったように、前倒し実施をして行っていくと。それ以外の部分につきましては、今現在はがれている床ですとか、それと壁のクラック、内壁のクラック、外壁のクラック、はがれ等々ある部分がありますので、基本的には内装関係、それから、若干雨漏りしているところもございますので、それらの修繕等々、外装の関係ですね。ということで、トータルの御要望ということで、学校からは承っております。ただ、これは決定事項ということでございませぬので、御承知おきいただければと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

分かりました。では今回は空調設備に絞って何点か確認させていただきます。来年度、2019年度に文命中学校に空調設備を設置する準備とは、残りの未設置教室全てに設置されることになるかと解釈してよろしいのでしょうか。

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

お答えいたします。基本的には、工事の内容については、設計業務を進めながら確定していくつもりでございますが、今現在想定しておりますのは、未設置の教室の30教室というのを一つ視野に入れながら検討してございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ということは、空調設備の入らない普通教室も出てしまう。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

お答えいたします。私の説明の仕方が、ちょっと不十分だったかと思っておりますけれども、基本的には今現在、議員おっしゃるように、特別教室として使える教室は既にあるという状況です。使えない教室、使えないというか、空調が整備されていない教室、そちらについては全て網羅していくという考えでおります。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ほっとしました。ありがたいことです。ちなみにその空調設備の環境ですね。失礼いたしました。外気温が危険な暑さになったとしても、授業を受ける十分な環境は確保されるものとして判断してよろしいのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

お答えいたします。もちろんその気温だけではなくて、湿度ですとか、そういった様々な気象環境があると思います。基本的には、授業が適切に受けられる環境を整えるということが趣旨でございますので、状況に応じて使えるような形にしていきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

分かりました。では、その環境を生み出すには一つの教室に何台のエアコンがつくというようなことが現在はまだ、どうなんでしょうか。例えば、1台なのか、2台なのか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

お答えいたします。それぞれの教室に、こういったタイプの室外機をいくつつけるかといったことは、今後設計業務の中で詰めてまいりたいと考えておりますので、現時点では何がいくつということではないということで御理解いただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（烏海 均）

補足ですけれども、今後の議会の中で提案されます補正予算が通った場合での前提で今、お話をしていますので、通らなければ、何も基本計画はできないわけで、ぜひ通していただきたい前提で今をお話ししているというのを御理解ください。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

では、ちょっと視点を変えます。

昨日、同僚議員が空調設備設置に関する質問の中で、2019年の夏前には設置されるのかという質問に対する答弁では、空調設備設置工事設計業務委託段階なので、その時点では難しいという見解が示されました。

改めて伺いますが、空調設備設置工事設計業務委託に委託する際、業者からの回答を待つのではなく、業者に2019年の8月中に設置完了となる回答を求める指示を出すことが可能だと思うのですが、それはできないのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

お答えいたします。指示を出すことができないかということでございますけれども、私といたしましては、夏にできるだけ間に合うようにやるというのが基本姿勢で考えてございます。ただし工事の工程上のスケジュールと、それからそれが学校の授業とかみ合わせたときに、どこまで実現性があるかといったことを考慮すること、そういったことから、現時点ではなかなかちょっと厳しい、夏までに全部完成するというのは、非常に厳しいだろうというふうに考えてございまして、できるだけ基本姿勢の中で遅くても来年度中には工事が終わるように進めていくというふうに考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

例えば、この補正でとおった後、冬まで冬期休業もあるし、また3学期であと春あるし、また、8月に、要するに長い休暇というのは、やはり可能な限り、指示を出すときに、いついつまでに工事が完了できるように計画を立ててほしいということは、ぜひ強く出しても良いのかなと、これは私の私見ですので、そのようなことをお伝えしておきます。

では、もし9月までに設置完了ができなかった場合も踏まえて、設置されるまでの期間中、生徒は現状のまま待たされるのでしょうか。あるいは授業を受けるにふさわしい環境に少しでも近づけるために、何か対策を考えていただけるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。御存知のように、今年の暑さは、歴史的になったということで、当面の間は、扇風機によって、湿度を下げるなり、風を与えてという形で、今年度設置をしました。通常であれば、28度なり、29度の学習環境、ベストではないけれども、通常の学習が7月20日まではできるという想定で環境整備をしてきたわけですが、いかんせん今度の場合には40度とかという高温になったということで、やはり来年もそういうことは想定されるのではないかとということを前提に、今、町長のサイドで補正予算を計上しながら、何とかして設計業務を早く今年度にして、予算化をできるだけ間に合わせて、来年の早いうちにできるだけやりたいのですけれども、工事の量が多いので、その辺については、先ほどから課長が言っているように、できるだけ早くやりたいというこちらの願いは持っているのですけれども、どこまで行けるかということは、なかなか今のところは言えないのが現状であるということに、先ほど答弁したとおりです。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

私の持つるマスコミの情報の一つに、南足柄市は来年6月までに設置するというふうに発表してるんですね。開成町は、中学校一つですし、南足柄市は一つではなくて複数の中学校、そのところが前倒ししてまでも、今、子どもたちのためにエアコン設置しますというふうな記事も載っておりますので、開成町もこれに負ける、負けるという言い方おかしいですけど、そういうほかの自治体が、もう6月までにつけますよというふうなマスコミ発表があるだけに、開成町も、こういう記事を見ている町民からすれば、開成町はどうなのと、期待することは大きいと思うので、ぜひ、9月から授業がはじめるときにはエアコン設置完了して、中学生を迎えるというようなことができるように、切に町民も強い要望出しておりますのでよろしくお願ひしたいと、そのように考えます。

それでは、二つ目の成人年齢が18歳になった初年度の成人式の構想についてのほうに移らせていただきます。

2023年1月までは、まだ4年ある。まだ先の話だとの考えもあるかと思えます。がしかしながら、先の答弁の中にも触れられていたとおり、成人年齢が18歳に引き下げられることにより、最初の2023年1月予定の成人式は、対象年齢が3学年にまたがります。18歳、19歳、20歳、それぞれの年齢によっては状況が異なる点、また、人数、予算対応も、現在の3倍になる点を鑑みると、成人式の構想は、早い段階から練っておくべきであるという観点から質問させていただきます。

先の答弁の中で、神奈川県内の市町村としては逗子市が早々に方針を打ち出したとありました。逗子市の考えは、これまでどおり、20歳のみを対象に、成人式を20歳を祝う成人の集いとして開催する方針を決めているようですが、逗子市の方針について、町長はどのような印象を持たれたのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

他市のことを直接話をするというより、私の考えとしては、今言われたように、時間的にはまだありますし、今、開成町の成人式のあり方については、当該の年代の子どもたちが自分たちで組織をつくって、どのような成人式をしていきたいかというのを尊重しながら、今、開成町は成人式を行っておりますので、これから18、19、対象年齢の子どもたちにまずは意見を聞くことからはじめないと、こちらで一方的にこうしようということを決める、今の段階では、まだ早いのかなと。まずは子どもたちの意向を聞いた上で判断をしていくというふうなのが、今の段階では良いのかなと私は考えています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

それでは、私の私見を述べさせていただきますけれども、18歳で祝う成人の集

いと、20歳を祝う成人の集いの違いを考えた場合、どんな意味で違いがあるのだろうか。飲酒と喫煙は、これまでどおり20歳からであり、その点に関して、20歳の意味はあると思います。しかし、2022年4月から、満18歳になる若者は、法的に成人になったことが認められる。法のもとで保護されてきた若者に、これからは成人として扱われることを伝え、成人としての権利が与えられること。そのための義務と責任が発生する自覚を促し、社会的に大人として迎え入れることの喜びを伝えることに意味があるとしたならば、18歳で祝う成人の集いの意味のほうが重いと考えたい。この点、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

確かにいろいろな考え方はあると思いますけれども、先ほどの答弁の中にもありましたけれども、18歳の歳の1月という、いろいろな大学受験も含めて、様々な課題もありますので、国の法律が一部変わったからといって、それに単純にあわせれば良いという話でもない。お酒とタバコはまだ20歳からという、この辺のずれも私はあると思うので、それはきちんと慎重に、子どもたちの意見を聞きながら判断をしたほうが良いのではないかと思います。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

開成町として、新成人の対象数の約8割、400人から450人を見込む成人式を考えるならば、会場や運営に工夫が必要になることも課題であります。どう考えたら良いのか。今の答弁でも、また先ほどの答弁でも触れられていたように、成人年齢引き下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議の成人式の時期、やり方等に関する取りまとめが、2019年度末には出されるようですので、教育の町開成らしい新成人のための成人式が執り行われることを期待しております。

それでは三つ目の開成町立小中学校へのタブレット導入に関する再質問に移ります。

まず教育長答弁の中にも一部触れられておりましたが、タブレット端末の利点、メリットについて確認しておきたいと思います。インターネット回線、特にwifi環境が整備されているという大前提はありますが、一つには、タブレット端末を活用する場合は、パソコン教室から離れ、校内の普通教室で使えるという点、二つ目として、教材をダウンロードして視聴できるという点、三つ目は全ての教科、あらゆる教科の場合、あらゆる教育の場合、さらには学校から離れた場所、例えば、自宅とか、どんなところでも使えるという点。四つ目には、ペーパーレスにつながるため、印刷する手間が省ける点。五つ目はインターネット機能を使い、辞書等がわりとして情報を得ることができる点などなど、タブレット端末の使い道は限りなくあり、教育現場を大きく変えるかもしれない可能性を秘めております。

さてタブレット端末は、現在、開成町立小中学校において、開成小学校には8台、開成南小学校には8台、文命中学校16台という答弁がありました。この台数について、教育長はどう見ていただけるのでしょうか、お伺いいたします。台数について、数です。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。学校によっては、個人に1台ずつというふうに配付してるところもあります。私としては、やはりグループでやったほうが、より使い方も熟知できるし、お互いにあの情報をやりながら、やはりコミュニケーションを一人が1台になってしまうと、対話の時間がなくなったりするので、むしろグループ学習の中でタブレットを使ったほうが、より効果的かなということで、8台ぐらいが良いのではないかと。小学校は四、五人、中学になったら、もう少し少なくしてというのが基本的に私の考えているタブレットの使い方。個人で一人一人を使うということは、若干今の状況では個人差がありますので、使い方を教えながらやっていくほうが今の段階としては良いかなという考え方を持っております。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

今の段階ではという条件付きでしたけども、私の考えは、少なくとも今の段階であったとしても、1学級分の35台から45台は準備することが望ましいのではないかとこの考えを持っております。さらにゆくゆくは将来、児童生徒一人に1台という時代が来ることを想定して、計画的な予算を組む必要があるではないかと考えます。予算計画を立てる立場にある町長としては、どう受け止めるでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

確かにITを含めて、様々な教育のツールとして、今、発展しつつあると思えますけれども、今、教育長言われたように、それだけになると、ゲームで今、ゲームしかやらない子どもが増えていくのと同じように、一人1台ということの良さもありますけれども、グループでやることによって、コミュニケーション、今、これから、そういうITだけではなくて、反対に、昔ながらのコミュニケーション、顔を見ながらの話をきちんとできるような子どもを育てていかないと、将来的に知識とともに知恵がある子どもを増やしていくというのが、開成町のもともとの基本的な方針で私は持っておりますので、そういう意味で、自治会とか、様々な大人の人たちの力を借りて、子どもたちの体験教育を増やしている。そこにありますので、そういうところのバランスをきちんと考えながら、タブレットの導入も考えていきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

見解の相違はあるものの、ICT教育の重要性は、今後ますます高まっていくという共通認識はあるような気がいたします。教育現場の声を聞きながら、ICT教育を進める上での手段や学習内容の理解を助ける一つの方法として、今後のタブレット端末を活用した授業の持ち方の研修を進めていくという教育長答弁もありましたので、そこに期待するところです。

教員研修が充実するには、開成町教育委員会から開成町教育研究会にタブレット端末を活用する研究授業なる研究しても考えても良いのではないかと思います。さらには神奈川県教育委員会指定研究を受けるとか、文部科学省指定研究を受けることもできますので、県教委や、文科省の支援を受けることも検討されることを望みます。

以上で一つ目の項目、開成町の教育政策に関する質問を終わらせていただきます。

それでは、2項目目の質問、開成駅及び駅周辺の利便性向上について質問いたします。

2018年4月28日発表の「2018年度鉄道事業設備投資計画」によると、小田急電鉄株式会社は、2018年度の設備投資計画の一環として、小田急線開成駅のホーム延伸工事を実施し、その目的について「今年度中に実施予定のダイヤ改正から開成駅10両編成の快速急行と急行を停車させる」ことを発表いたしました。このニュースは既に全戸配布チラシで町民に周知されていることではありますが、開成駅を利用している人にとって大変ありがたいことであり、また、地元住民にとっても長年待ち望んでいたことなので喜ばしいことである。開成町にとってのイメージアップはさらに増すものと思われれます。そこで、この時期を捉え、開成町の玄関ともなる開成駅及びその周辺のさらなる利便性向上を追求し、意図的計画的なまちづくりを目指す必要があります。この観点で今回は次の質問をいたします。

①最初の急行が停まるときに歓迎式典セレモニーの考えは。

②小田急電鉄と新たに交渉する策は。

③郵便局誘致の進捗状況は。

④開成駅を通るバス路線の誘致計画は。

以上、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、井上議員の御質問にお答えします。

はじめに、最初の急行が停まるときの歓迎式典の考えについて、お答えいたします。

小田急電鉄株式会社の2018年度鉄道事業開設設備計画では、今年度中に実施

予定のダイヤ改正から、開成駅10両編成の快速急行及び急行の停車が予定されておりますが、その際の記念式典等の実施につきましては、開成駅が始発駅または終点駅ではないことから、駅構内の安全確保やダイヤの正常運行、乗降される方々の影響等を考慮した上で、特別な式典等の実施については、町、小田急電鉄ともに考えておりません。

快速急行・急行の停車については、記念式典等の形式的なものではなく、広報などの媒体を通じて町民の皆さんに十分なPRを行い、これまで以上に開成駅の乗降客数の増加を促すことが、駅機能の強化や利便性向上につながるよう、努めていきたいと考えております。

次に、小田急電鉄と新たに交渉する策について、お答えいたします。開成駅の快速急行・急行の停車にあたりましては、必然的に駅利用者の増加が見込まれることから、町の玄関口である駅周辺のインフラの再整備による機能向上について検討を進めるとともに、駅の利便性向上を図ることから、質の高い住環境の形成を図ることができるものと考えております。

これらのことを具体的に進めていくためには、小田急電鉄株式会社との情報や意見を交換する場の設置が重要であると認識しており、既に関係課による調整を3回ほどを行っているところであります。今後も引き続き情報共有や意見交換を進めていく中で鉄道事業者の動向を把握するだけでなく、駅機能の向上や駅利用者の利便性向上、さらに駅周辺の整備について協議を重ねていきます。

続きまして、次の郵便局誘致の進捗状況について、お答えをいたします。

町としましては、民間企業での一定の検討がなされていることを承知している状況であります。

最後に、開成駅を通るバス路線の誘致計画について、お答えをいたします。町としては、開成駅を拠点とする広域的な交流や地域内連携の強化、公共交通ネットワークの形成を図ること等を目的に、新規バス路線の誘致を進めていきたいと意向を強く持っております。しかしながら、バス事業者からはバス業界全体の課題である運転手不足の解消などを図る目途が立たないこと等の理由から、現時点で新規路線の参入について、具体的な考えを守っていないとのことでもあります。

今後において、開成駅周辺の再整備等検討していく中で、鉄道事業者同様にバス事業者との情報や意見交換の場をきちんと整えていきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

それでは、一つ目の最初の急行が停まるときに歓迎式典セレモニー関係について再質問に入ります。

開成駅が始発及び終点駅ではなく、駅構内の安全確保やダイヤの正常運行、乗降される方々への影響も考慮し、特別な式典等の実施については、町、小田急電鉄と

もに考えていないという答弁をいただきました。小田急電鉄の言い分としては、もっともな考えとして、謙虚に受け止めるしかないかなと考えますが、しかしながら、長い間急行が停まることを望んでいた町民の意向を受けて、さらには開成町のイメージアップを狙い、定住促進を図るためのまちづくりの一環として開成駅が急行停車駅になるよう小田急電鉄に交渉してきた、町側が考えていないという姿勢は少しさびしい気がいたします。何らかの感謝の気持ちを形に表すことが大事ではないでしょうか。

例えば、横断幕やのぼり旗を飾ることで、小田急電鉄側に感謝の意を表すことができると思います。歓迎式典はできないまでも、快速急行と急行が停まることを歓迎するという気持ちを、何らかの形で表すという考えはいかがでしょうか。町長の気持ちとして。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、言われたように、井上議員から、式典の話ということで、それは考えていないという話ですけれども、今のように、祝いという横断幕はよくある話です。そういうことは十分考えられるし、それは町民の皆さんだけではなくて、小田急線を使っている方々にとっても、気持ち良いものだと思うので、そういうことは検討事項に値することだなと思います。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

町長としても、小田急電鉄側とトップセールスやってきただけに、やっぱり歓迎する気持ち、感謝の気持ち、特に町民は喜んでるんですよね。全戸配布のチラシを見て。まさかこんなに早く急行が停まるとは、信じていなかっただけに、そのやっぱり期待はあったというだけに、何らかの気持ちでやっていただけたらなと、ぜひぜひ、よろしく願いいたします。

また、先ほどの町長答弁の中に、マスコミ等にもいろいろPRして、それがマスコミに載ることによって、開成町のイメージアップは広く伝わるといいますので、限りなくこういうチャンスは生かしていただきたいなと、そんなふうに思うところでございます。

それでは、二つ目の小田急電鉄と新たに交渉する策について、再質問いたします。

まず、開成町の玄関口として、駅周辺のインフラの再整備による機能の向上について検討を進めているという答弁がありましたが、駅周辺のインフラの再整備とは、具体的にどんな整備を考えられているのでしょうか。支障がなければ、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

それでは、井上議員の御質問にお答えいたします。基本的には駅ロータリーで、今、御存知のとおり、バスが2路線、それとタクシーは電話をしないと来ないのですけれども、あと一般車両という形の中で、現時点でも、ちょっと一般車両については送迎ですね。少しキャパが足りないじゃないかという意見もございますので、そういったものを急行停車見据えて整備をしていくと。ただし、この先、議員のまた質問があるのかと思いますけれども、現在3回ほど小田急電鉄とも調整していますが、一つは、小田急電鉄としても、ロータリーは町のものでありますから、基本的には町さんの考えで、小田急電鉄してはどうかというのは、ないですよ。ただし、今、町さんからの要求といいますか、要望といいますか、そういったものがあれば、それはできる限り協力なりしていきますよと。それとあともう一つは、経験上、確かに停まる前になっていけば良いのですけれども、ただ、停まってみてみないと、分からないでしょうと。ただ、我々は希望的観測で増えるというふうには思っていますけれども、隣の新松田も急行停まりますので、そういった中からして、開成町のその辺の、開成町だけを考えれば、地理的に考えれば、どれほどのプラスがあるのか。そういった状況があるので、まず急行が停まってみて、様子を見た中で、基本計画なりをつくっていきたい。そういうふうを考えています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

今の課長の答弁より、そのことを次に質問しようと思っていたところでございますけれども、大体3回の打ち合わせの中で、具体に出てきた話題がそれなのかなと、そういうふうに思いました。それ以外には、どうなのでしょう。あそこの3回の打ち合わせの中で話題に出てきた内容は、ほかにもあるのでしょうか。ないのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

その前にお断りと言いますか、私どものほうは、町長以下、町の姿勢として、小田急電鉄さんと、フォーマルなと言いますか、正式な、協議会的なものをつくったかどうかという形で投げかけをさせていただきましたが、小田急電鉄さんとしては、先ほどいったように、停まってからでないと、なかなか予測を見誤ってしまうところがあるので、それまでは事務的なレベルで打ち合わせをさせていただきたいという形ですので、現在は、フォーマル的な協議会になっていないのでございまして、ですから、そういう意味からすると、別に隠す云々とかではなくて、ロータリー以外で世間話的な部分は、例えば、駅前通り線の区画整理の話ですとか、それは出ていますけれども、特段ここで申しあげるような、話というのは出ていません。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

では、ちょっと視点を変えたいと思います。小田急電鉄と開成町の2社で、開成駅の利用に関して、また、駅周辺の開発について、協議する場を設けることが、今後も重要となってくるのではないかと。その中で、住民や利用者が求めている点を、ちょっとお伝えしたいと思っております。

町民が望んでいることは、延伸ホームの北側、新松田駅側からICカードで入ると、急いでいるときに、今の開成駅改札口まで行かなくても、ゆとりを持ってホームに入れる。急行電車に乗れば、駅の使い勝手は、さらに良くなるな。また、延伸されるホームに屋根があれば雨のとき、ホームで傘をささずに電車が来るのを待つことができる。また、上り線ホームに待合室があると、夏の暑いとき、冬の寒いときにこそ、助かるという。また現在、駅売店が朝の通勤時間帯だけにしか開店していないので、通勤帰りの夕方にも売店があいていれば新聞の夕刊が買えるといったいくつかの願いがあります。また、別の声として、あじさい祭りシーズン、阿波踊り当日を挟んで前後3日間、ロマンスカーは停まるのだろうかなどなど、いろいろな声があります。開成駅に快速札急行と急行の停車に伴って、利用者の増加が見込まれるとして利用者の声を小田急電鉄にぜひ伝えていただきたい。駅機能の向上や利用者の利便性の向上、さらには周辺整備について協議を重ねてほしいものです。トップセールスの役割を担ってられる町長として、これまでの町民の声をどう受け止められるのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、部長のほうからまだ正式な協議の場ができていないという話ですが、小田急電鉄さんの意向も含めて、今、事前には、そういうふうな御意見は事前にいただいておりますので、伝えてはあります。正式に開通した後、基本的に、それまでの準備期間と捉えていただければ良いのかなと、きちんと正式な協議の場をつくって、また、改めてそのような形で、町民の皆さんの御意見、要望を小田急電鉄に伝えていくという、そういう協議の場合を、今準備としてつくっていく。打ち合わせを、下支えを今しているということで御理解いただきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ぜひ、期待しております。それでは3点目の郵便局誘致の進捗状況の再質問については、民間同士のことですので、再質問は控えたいとは思いますが、しかしながら、民間同士、あるいは民間企業での一定の検討を見守るとしてでも、もし進展が硬直しているとしたならば、まちづくりの立場で、背中を押すことができ

ないのだろうか。そんなことを思うと、町長の率直なお気持ちを伺ってもよろしいでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

確かに民間同士の話ですけどしても、開成町としても、郵便局の誘致というのは、住民の皆さんから要望を受けておりましたので、私も行かせていただきまして、開成町にもつくれる状況にはなっています。あとは民間同士の中で土地とか、それは我々が口を出す話ではなくて、そういう土地取引も含めて、そういうところが、今、ちょっと停まっているところがあるのかなというふうに、私は受けておりますけども、できるだけそういう地主さんの協力が得られるように、促しはしていきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

町長といたしましても、町民の気持ちというのが把握されているようですので、その辺、この点に関しては、ここで終わりにさせていただきます。

では、4点目の開成駅を通るバス路線の誘致計画について、再質問いたします。とは言っても、先の町長答弁を伺った中では、町として開成駅を拠点とする広域的な交流や地域内連携の強化、公共交通ネットワークの形成を図ることを目的に、神姫バス路線の誘致を進めていきたいとの意向は強く持っている、これは確認させていただきました。バス事業者へのヒアリングにおいて、運転手不足を抱えている状況から新規路線参入についての具体の考えを持っていない認識であり、駅周辺の再整備を検討していく過程において、バス事業者との情報交換や情報共有の場を整えていくという御答弁でしたので、再質問のかわりに、私からの情報提供と私の意見を述べさせていただけたらと思います。

先日、8月21日に、2市8町の市、町の議会議員の有志からなる県西地域政策研究会の講演会の中で、「箱根における小田急グループの取り組み」と題しまして、小田急ホールディングス取締役営業統括部長から話を聞く機会がありました。その話の中に小田急箱根グループでは、2020年度に向けて箱根エリアにおいて総合100億円規模の大型投資をスタートさせるとのこと。その中で小田急箱根グループの一つである箱根登山バスでは、路線バス車両の増車と更新、箱根キャリアサービスの運搬車両を増強、バスロケーションシステムの導入を検討されているようです。講演の際、配布された箱根エリアマップを拝見しますと、仙石原を經由して御殿場駅までのバス路線が整備計画の中にあるのが分かりました。ここで考えたいのは箱根町だけではなく、県西地域全体に観光客の新たな流れを生む一つの策を講じていくことができないのかと考えます。仙石原から南箱道路を經由し、開成駅までの小型バスを使うバス路線の誘致です。箱根を訪れた観光客を足柄地域に引き

込む戦略としての案です。開成町だけではなく、南足柄市、足柄上郡5町で連携して観光客を呼び込む策です。小田急グループが箱根戦略にあわせて立ち上げた新会社小田急箱根ホールディングス株式会社を交渉相手とするのも一案です。これもトップセールスとしての町長に期待したいところですが、この話を聞いて、町長のお考えはどうでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

広域の中で開成町単独ではなく、やはり上郡が、組長が協力し合いながら、そういう交渉をしていく必要性はあるのかなど。今、民間のバスの話でなかなか運転手がないということで、先ほど答弁をさせていただきましたけれども、やはり広域の中で、様々なそれぞれ町で巡回バス等を持ってやって、開成町ももちろんやっていますけれども、そういうところで、もう少しうまく連携をしながら、ほかの町の巡回バスも開成町をものすごい広げるといえるか、そういうふうなことも、これから考えていく、広域の中で考えていく必要がある。民間がなかなかやらない場合は、公共の中でどうやって効率的にうまく運営をしながら、町民の皆さんの利便性を高めていくかということも、広域連携の中で大変重要になってくると思いますので、1市5町の中の首長会議の中で、様々な提案をしながら、検討していきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

もう一つ紹介します。過日、7月26日に箱根町議会最大会派の勉強会に参加し、箱根DMOの戦略について学んできました。Dはディストネーション、観光、Mは、マネジメント、経営、またはマーケティング、Oはオーガナイゼーション、組織の略ですけれども、これはどんな組織で、どんな戦略を持っているのかということ、地域の稼ぐ力を引き出し、観光地そのものの経営を担う、新しい組織体です。その戦略は、行政、地域住民、地域住民、宿泊業、飲食業、小売業、文化観光施設、交通事業者、農林・漁業、教育機関という多様な関係者からノウハウを吸収し、合意形成を進め、質の高い観光地経営を実現しようとするものです。この戦略が軌道に乗れば、箱根は名実ともに世界の観光地箱根になることでしょう。

さて、ここで考えたいのは、足柄広域連携を模索している今、足柄版DMOを研究し、箱根の観光客を足柄エリア、特に開成町に観光客を引き入れることを真剣に考えるチャンスと言えます。そう考える背景は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにあわせるかのように、小田急グループが箱根町に大型投資を仕掛けている。また、箱根DMOが立ち上がり、観光の町箱根が大きく変わるかもしれない予兆があるからです。

さて話をバス路線の誘致に戻しますが、誘致を考える一方、別の考え方がありま

す。それは町独自でバス路線をつくる計画です。まずは1路線として、開成駅、開成町役場、瀬戸屋敷、瀬戸酒造をつなぐ小さな路線です。これは開成町の3区画、南部、中部、北部をつなぐ夢の路線です。このバス路線を使って、開成駅に降りた観光客が、新しいZEB庁舎を見学した後、瀬戸屋敷のイベントに参加して、瀬戸酒造の市城の見学をすることを売りにした新たな観光戦略を構築したらどうか。バスとしては、瀬戸屋敷指定管理者に持ちかけて、トゥクトゥクを、または町のマイクロバスといった、小さなバス活用するのも一案ではないでしょうか。開成駅に快速急行と快速急行と急行が停まる。この千載一遇のチャンス到来を受けて、町独自で小さなバス路線をつくってしまう。小さな仕掛けで大きな活力を生み出す戦略ですけれども、この考え、町長、どのような思いで聞かれたでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

いろいろな新しい提案でおもしろいなというふうにも思いますけれども、基本的に1市5町のいろいろな広域の中でも、観光面の協力的なことがあるのですけれども、観光協会でもって、自分の町が観光として生きていく町と。開成町は観光で生きていく町と認識をしておりますので、基本的な話として。北部地域活性化で、箱根のお客さん呼び込んで、交流人口を増やしていこうという考えはもちろん持っていますけれども、それで開成町が観光の町だというふうな認識ではありませんので、それぞれ立場によって、その思いが違ふと実は思うのです。

開成町においては、特にインバウンドの話もいろいろなところでもありますけれども、私はもっともっと身近なところでターゲットを絞って、開成町の交流人口を増やしていくほうが、実があるのかなということで、今、実際的には、真鶴の人と子どもたちと交流を増やしていったり、これからは川崎市が多摩区と、そこは21万人ぐらいの人口がありますけれども、ここと先日あじさい祭りのときに、多摩区長さんほか、役員の皆さんに来ていただいて、開成町の今のあじさい祭り、ほかも見てくださいけれども、こういうところとターゲットを絞って、子どもたちも含めて交流をしていく。そういった中で交流人口、また、開成町のファンになってもらう人を増やしていく。それ以外にプラスアルファとして、オリンピックで箱根にお客さんがたくさん見えられるわけですから、それは千載一遇のチャンスとして、北部地域に交流人口として来ていただけるような、それによって、北部の農業を活性化をしていきたい。いろいろ重なりながら、今、いろいろな政策を打っているわけですので、開成町が基本的に観光の町として変化をしていくつもりはありませんので、開成町は小さくても住みやすい「田舎モダン」な町を目指して、暮らしやすい町を目指していく。その中でやはりお客さんには来てもらえるような努力はしますけれども、そのような基本方針のもとで、これからもいろいろな今のバス路線の話も含めて考えていきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○ 9 番（井上三史）

まとめます。開成町らしさというのは、今の町長答弁でも伺いますけれども、しかし、誘致をしつつ、広域連携を模索しながら開成町らしい自前の政策をも検討するといった三本仕立ての政策を期待して、私の質問を終わります。ありがとうございました。